

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第25週 (6/19-6/25) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		25週	24週	23週	22週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	4	4
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	6/19-6/25	6/12-6/18	6/5-6/11	5/29-6/4	6/12-6/18
			25週	24週	23週	22週	24週
小児科	RSウイルス感染症		1	1	3	1	21
	咽頭結膜熱	○	14	7	10	6	126
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	71	55	64	65	543
	感染性胃腸炎		108	117	124	162	750
	水痘		13	10	10	12	84
	手足口病	○	37	21	20	14	87
	伝染性紅斑		0	0	2	1	6
	突発性発しん		12	14	15	18	74
	百日咳		0	0	0	0	4
	ヘルパンギーナ	○	29	21	6	1	70
	流行性耳下腺炎		3	5	6	7	32
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		2	7	5	6	41
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	1	0	0
	流行性角結膜炎	○	10	1	7	4	34
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	4
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	1	0	3

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出	腸管出血性大腸菌感染症	女性	10歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認
結核	男性	50歳代	IGRA検査				
結核	女性	10歳代	IGRA検査等	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	女性	70歳代	細菌の検出、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
結核	女性	50歳代	IGRA検査				
急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	70歳代	病原体の検出

・第25週は、結核4件(105)、腸管出血性大腸菌感染症1件(3)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(8)、

急性脳炎1件(12)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(19)の報告があった。

※ ( )内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

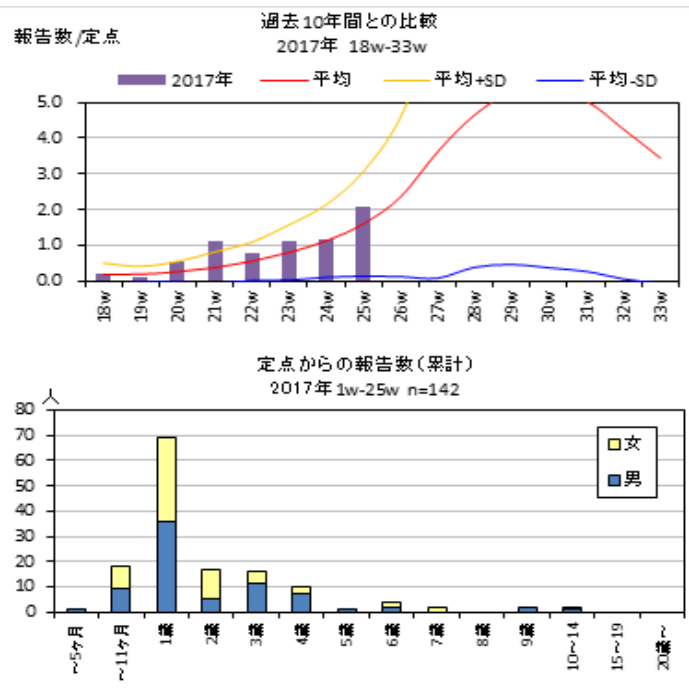
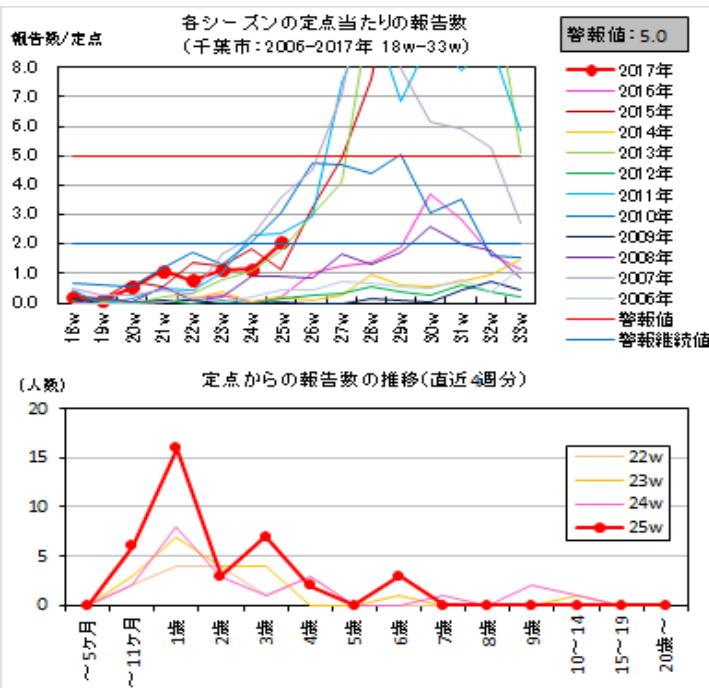
## 定点当たり報告数 第25週のコメント

- <咽頭結膜熱> 前週より増加し0.78となった。過去10年の同時期と比べると多め。
- <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し3.94となった。過去10年の同時期と比べると多い。
- <手足口病> 前週より若干増加し2.06となった。過去10年の同時期と比べると多め。
- <ヘルパンギーナ> 前週より増加し1.61となった。過去10年の同時期と比べると多め。
- <流行性角結膜炎> 前週より増加し2.00となった。過去10年の同時期と比べると最多。

### トピック

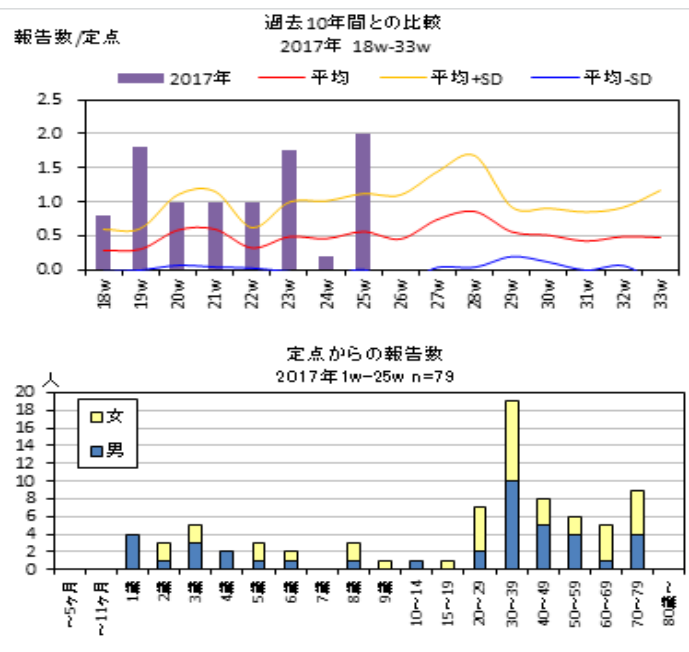
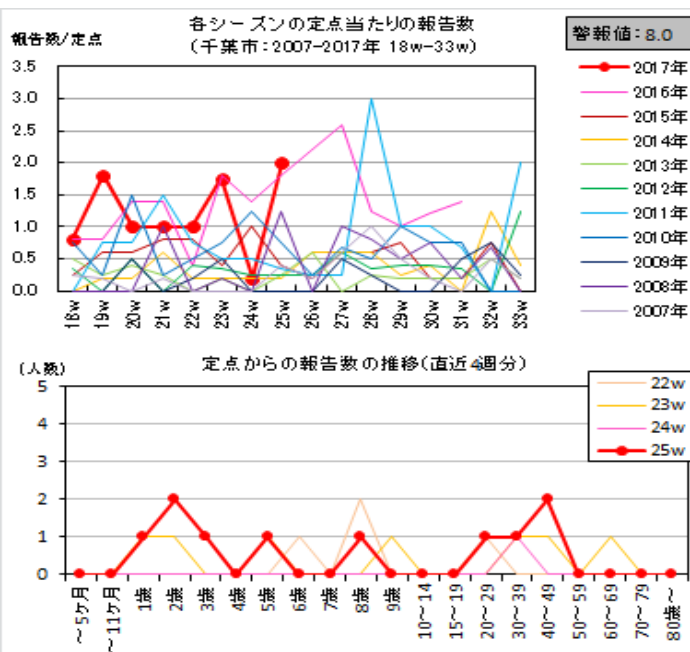
#### <手足口病>

全国レベルの第24週は、過去9年の同時期と比べ多くなっています。都道府県別では、香川県、高知県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の第25週は前週より更に増加し2.06となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなりました。例年の発生動向では今後増大する可能性があります。区別の発生状況は、緑区(5.00/定点)で流行発生警報開始基準値に達し最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第25週までの累積報告数(n=142)によると、性別では男性が52.8%(75名)、女性が47.2%(67名)で、年齢階級別では1歳(48.6%:69名)、6か月~11か月(12.7%:18名)、2歳(12.0%:17名)の順に多くなっています。



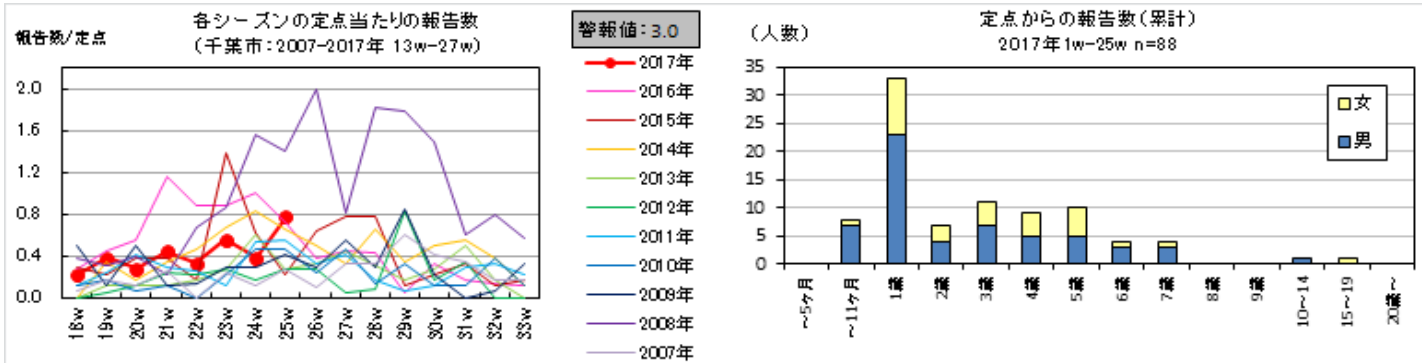
#### <流行性角結膜炎>

全国レベルの2017年第24週は過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では宮崎県が最も多く、次いで神奈川県、茨城県、山梨県、鹿児島県で多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2017年第25週は前週より増加し2.00となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、美浜区(10.0/定点)で流行発生警報開始基準値(8.0/定点)を上回り最も多く、同区の2歳及び40歳代で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第25週までの累積報告数(n=79)によると、性別では男性が50.6%(40名)、女性が49.4%(39名)で、年齢階級別では30歳代(24.1%:19名)、70歳代(11.4%:9名)、40歳代(10.1%:8名)の順に多くなっています。



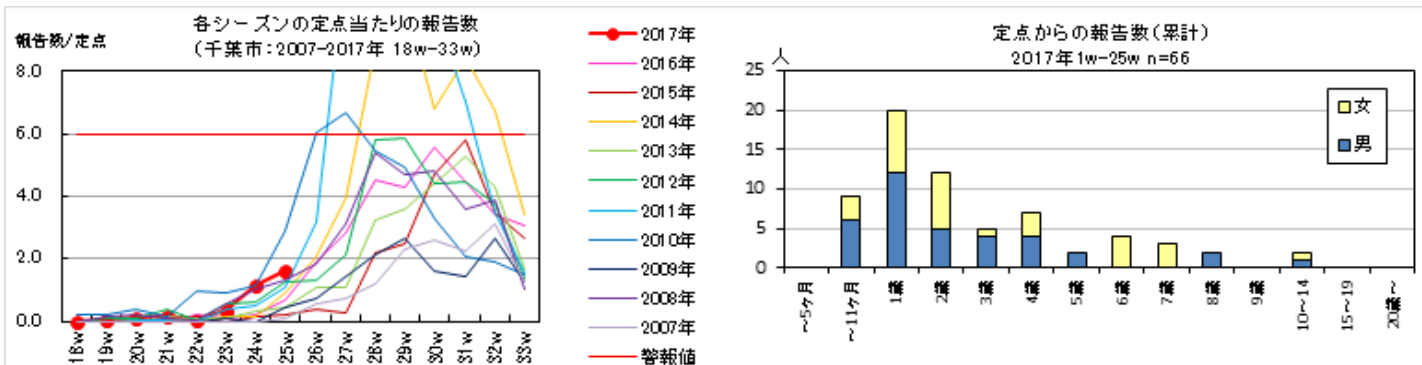
## <咽頭結膜熱>

全国レベルの2017年第24週は過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では山梨県、鹿児島県、北海道の順で多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルとなっています。千葉市の2017年第25週は前週より増加し0.78となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(2.0/定点)で最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第25週までの累積報告数(n=88)によると、性別では男性が65.9%(58名)、女性が34.1%(30名)で、年齢階級別では1歳(37.5%:33名)、3歳(12.5%:11名)、5歳(11.4%:10名)の順に多くなっています。



## <ヘルパンギーナ>

全国レベルの2017年第24週は過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では福岡県、香川県、鳥取県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の2017年第25週は前週より増加し1.61となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。例年の発生動向によると、今後増大する可能性があります。区別の発生状況は、緑区(3.75/定点)で最も多く、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第25週までの累積報告数(n=66)によると、性別では男性が54.5%(36名)、女性が45.5%(30名)で、年齢階級別では1歳(30.3%:20名)、2歳(18.2%:12名)、6か月~11か月(13.6%:9名)の順に多くなっています。



## <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの2017年第22週は過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では鳥取県、山形県、大分県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2017年第25週は前週より増加し3.94となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(7.67/定点)で最も多く、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から2017年第25週までの累積報告数(n=1490)によると、性別では男性が54.6%(918名)、女性が45.4%(762名)で、年齢階級別では4歳(12.6%:212名)、5歳(12.1%:204名)、6歳(12.0%:202名)の順に多くなっています。

